義捐金取次手續

福嶋縣磐梯山噴火の罹災者に賑恤救濟せんとせらるゝ慈善家の爲め浜金の便を圖り本社其取次の勞を執るべし其手續は左の如し

一義捐金は一口十錢以上とするべし

一本社に於て義捐金を受取りたる時は義捐の金額義捐者の姓名を時事新報に登錄し之を以て受領の證となし別に受取書を差出さず

一本社へ送金の方法は郵便爲替、金子入書狀、銀行爲替等送金者の隨意なれども郵便爲替なれば府下芝口郵便局宛にし總て東京々橋區南鍋町二丁目十二番地時事新報社と受取人と記名ある可し但府下の義捐者は必ず現金を添へて本社へ申込みあると要す

一罹災者中家を失ひ產を破り目下寢食にさへ差支へたるもの多くして救濟極めて急を要するとゆゑ相當の金額に達し次第隨時之を取纏めて福嶋縣廳に送り救恤配與方を請求すべし

時事新報

凶荒の用意如何

凶荒の害の恐るべきは今更申さ迄もおく人々の知る所なれども我國にて天保七年の全國大饑饉は今と去ること五十二年前にして其後今日に至るまでは未だ大饑饉と稱する程の凶歲に遭はず今の少壯の人々は唯その害の恐るべきを耳にするのみにて其恐るべきの實と見さるが故に恐怖の感覺も亦隨て薄からざると雖ども我輩今その恐る可き次第を說らんとするに當り偶ま〳〵文政年間に刊行に係る下野黑羽の人鈴木某が著したる農喩と題する古本を得たり其中は天明三卯年大饑饉の有樣を記したるものを見るに當時の凶荒の慘狀と迅し其害の恐るべきを知るに足るものあれば左に其數節を抄出して讀者に示すべし

（前略）卯年のきゝんたりしをつく〳〵と思ひ見れば近頃の樣に覺えしよ年月は早くも過行て已に廿三年にあり如實に光陰は矢の如しといへりさあれば此きゝんの難はいつ來べきもはかりがたければ今にも來りて又もやうき事を目の前に見るあらばいかほどの苦患ともいふばうなき事あれば恐きうれひてかりにもわするべからず但卯のきゝんも此近國關東のうちはいまだ大凶しんとはいふにはあらず其故は秋作實のうも少づゝはありてとりもし又御領主方より御救の米穀および友救の雜穀等もありし故食餌のゝえてうゑ死せしといふほどのものは一人もなかりければ也扨又奧州等の他國よはうゑ死にせしが多くありけりわけて大きゝんの所にては食物の類として一色もなかりければ牛や馬の肉はいふ及ばず犬猫までも喰盡しけれどもりひに命をたもち得ずしてうゑ死にけり其甚所にて其數の二三十もありし村々或い實の四五十もありし里々にて人皆死に盡しひとりとして命をたもちしはなく死もありけり其なき跡を吊ふ者なければ命の終りし日も知れず死骸ハ埋ざれば鳥けだものゝ餌食となれり庭も門もくさむらと覺て一村一里すべて亡所となりしもあり如此成果て見る時はゆゑ過し樣はあり然を其由を知らぬ人はどは何ほどのきゝんゝりといふともさまでの事いあるまじきと思ふもあらんが其疑ひをはらさせんゝ為めに實證を開化届けし事を示す事左の如し

右卯年きゝんの後上州新田郡の人に高山彥九郎と云ひゝあり奧州一覽の爲め彼國に至りまゝやのしてと經めぐりあるきしがある山路へかゝりとしに踏まよひて行べきかさを失ひ難義のあまり高尤盤によぢれぼりて山のふもとを見渡しければ山間に人家の屋根のゝやうにあるを見付けじかば心悅で草木を押分けつゝやう〳〵としてふもとに下りしに其村里に人とてはひとりもなしこはいかなる事ゝやと見まはせば田畑の跡い荒々たるくさむらとなり家々は皆さふれかたふ尤軒端は葎なとはひまとはれりあやしと思ひなゞら空家に入りて見れば篠竹など椽をつらぬ尤出たり其間々ゝ人の骨白々と亂れあるしを見て国も當られず大ゝれどろきいと物凄おぼへければ身の毛よだちて恐れをなしとく〳〵ろみを走出人住む里へと志し路を尋ねれども大に苦みしが路らしたにたゝねあたりとやかくとして人里に馳着始て人心地となりけりかくあれば奧の方ゝんたまし餓死の樣子は關東へ聞えしよりも直に其所を見ては殊更にかとろかれ恐しき事共ありとの物語なりし

前略（抑此しけは六月の始より九月の末まで四箇月におよびけるこそうたてけれゝに至りて諸作物の色益かはりて實入らずまづ稻穗はそらだちしてたれまゝゝみしいなく所によりてはまれ〳〵に少しの實入しがあれども久しく長しけにあひされば其寒風いたみしと見え米となしても其性ぬけたれ〳〵だけやすく飯に炊ても酢味あるひは甘味ありてつねの米の風味にあらず其外の雜こくとてもみれに似たり又根や葉を用ふる野菜のたゞひも不熟たりし事は相同じゝりければつひよは秋の作毛すべて皆無同然となりはて上も下も穀食に乏しく食慮空して人々多く飢に及びしかばきゝんの大難此時に至りとかなしめる事はみにて其あげきの甚さ言語に尽し世と成り凡民は貧して貯なきが多き者されば忽に根又は野老の類をほりとりつゝ扶食とせり其求むる有樣は山に登り谷よ下り其辛勞限なし其上製しなす事もたやすからず一日のかせぎにて一日の食に當りかねたり又栗柿しだみ櫻の實くぬきの實を拾ひ其外木の葉草の根をつみなどして凡人の口へ入るといふものとざにきけば何よりすくふひつゝ只命をつなぐ事のみなりゐく千辛萬苦して心を勞し力を盡しけれども何ゆ其飢を凌ぐに足らずありしかば食物を假むとすれども世間一同たればいづ方にてもこくもつとては不足もゑに借人なし金錢とても殊に不通用たれば假借の道たえて一粒一錢も不自由の世間となり人の命實にあやうく見えたりけり云々

（前略）此時道にゆきたふれてうゑ死せし者おびたゝしく有けり其中に一人の男ありしが衣類を始身のまはり屬の物ゝ至る迄美々しくあみならざる出立ゆゑに其所の者死骸を見屆ければ金百兩とくびようけわりしと也さあれば多くの金を持ちし人くひ物と求めんとて旅に出しと見えたれどもうゑ死のぐべきわづかの一飯と得る事あさはずしてかく餓死せしと察せられたれば誠に殘念ある事なり百兩の金を身に添へし人ゝさがしをまぬかれざりし有樣かくの如し貴乞人のがしせしはなとすみやのなちんとふもひやら れしとなり云々（此一節は享保十七年の事を記したるものなり）奧州の中にてもきゝんの甚しき村々の者どもくふべき術のなきはまくもつの少しもありときゝふよべる所へはる〳〵と志して家内皆つれだちてこじ尤に出しが多くゆゑとしと死こえなり其中に已きてとぼしきは金錢もなければ途中にても食餌にとはざのり日をかさねしにつれて身のふとろへはてし上遠路のつかれにたえがさく山路などにゆきゝゝりてたふれ死せし者おびさゞしくありけるかくていづこのたれと云名もあれず尋ねとふべき人もなければつひよい鳥けざものゝえじきになれりいとあはれなるお事ありも又家と去ずしてありし者の中にはうゑにたえのねて自らくびをくゝりて死しあるひは井戸川へ身をなげて親に別れ子をすてゝ死せし者いくばくといふ數のさりもなりりし殊ふいとけなき尤子のうゑしは乳房をくいふれども母も食よ遠ざりし事おれば乳もたえて出すさあれば子いうゑにせすりてちぶさとくひきり又い父のもゝおとにくひつきてやみ犬のごとくなるゆゑせんかさなくひつ長持の類におし入れおき死するとまちて打捨しも有しとや云々

（未完）

雜報

○獨逸帝の國會開場式　獨逸新帝ウヰルヘルム第二世及び同皇后は即位後始めて六月廿四日を以て伯林府に來着し同廿五日にい國會を開場し登祚の披露を爲したるにて其前より用意取々ゝて此度の開場式は去る千八百七十一年三月今の獨逸聯邦の同盟成就して故ウヰルヘルム第一世が始めて執行したる國會の開場式以來未だ曾て見ざるの盛儀と行はんと帝は親ら其差圖を爲し又敕諭文の刪正をも親らし聯邦の諸王公ハバウアリヤの代王、サキソン王、ウルテンブルグの太子ルーデン及びヘッスの大公と始めとして殘らず出席する筈なり帝い此等の諸王公及び普魯西の公族に圍繞されて式場に臨み帝の着席すると待て聯邦の諸王公は其右に坐し普魯西公族は其左ゝ坐ゑ皇后は前に坐ゑ坐定るの後、參謀本部長モルトケ將軍が三度萬歲を唱ふるを俟てビスマーク侯は進んで帝に勅諭文を捧ゞ帝は之を朗讀す式終て帝は場中の要立たる人々と共に會食する筈なりしが當日となりては注の如くの式相濟みたり帝の勅諭文は過日の時事新報電報欄内ゝ記する如く平和と希望し進んで侵すことを爲さず退いて守るを專一とすべしとの意に外ならず尙位獨逸は墺、伊二國との同盟を固守し兼て露帝に對し勉めて友誼を盡すべしと陳べより夫より國會議員い此勅諭の答書に付き會議を開き議長が認先置きさる其草案を讀したるに衆員異議なく贊成し議長をして帝に呈せしむることに決し次に議長は閉會の旨を告ゞ一同新帝の萬歲を祝して退場しさりと云ふ

○上半季間の金融　府下坂本町ある同盟銀行の集會所ゝ於て取調て高崎東京府知事に差出したる本年上半季間れ府下一般の金融景況を開くに薩腦下旬は時節柄とて一時は逼迫の姿見えしも新年に入りて日を經るゝ隨ひ次第に引弛みし處に二三月の交より外國爲換相場の低落しければ久しく横濱市場に殘留したる生糸も茲に賣行の道を開き曾て京濱に於ける其向きの銀行より生糸に對して融通ゝし置きさる金も追〳〵返濟ある折から諸商工業ゝ〳〵不景氣の傾向を呈したるに付き一般の金融漸く緩みゝ利息等を引下げ此一事にても當るに申込みは三百後四月下旬に至りたる事なく五月して衣服其他必要當局の商人ゝは賑らんおれども去事實もなきまゝゝ至るも格別の如ゝ於て貸付金の此一點に目を注ぎ感覺を起した祿其他の公債ゝりには大抵整理錢の金祿公債元金の方を請ふもて幾分か現金の準備ゝ充てしも年間は上半季間に若むの狀態にて月以來左まで緩より一割内外極圓滑に運轉し六月に至る府景況の參考に供

月	公債	紙幣
一月	無有	無有
二月	無有	八分三厘
三月	無有	八分六厘
四月	無有	八分五厘
五月	無有	八分二厘
六月	無有	八分二厘

○赤城艦進水式の筈なりし同進電報にも見えしする事ゝ組ば内將校にも來月早

○鳥海號　平野は今二十三日品

○軍用十二連發製造を畢りたる質地射擊の試驗係の職工等も同

○陸軍傳技生賜する筈なりと

○議事堂の增築事堂は何分手狹の休暇中に增

○義捐金募集凶荒に付き此凶多く其慘狀筆紙も被害者の救助を業とする者は

本年六月陸地測量部校速成生中休業ヲ廢レ特別科ヲ設ケ五十名限入學ヲ諾ス

修技所生徒十三名

入學試驗ニ於テ合格者廿三名ノ內當及第セリ○本月十八日官報ニテ更ニ同生徒召募ニ付右受驗者ノ爲墨付ヲ受ケ本社ヘ申出フ

九州鐵道會社廣告

本會社申込株主內死亡改名其他ノ事故ニ由リ名前替ヲ望マル、諸君ハ來ル八月二十日マテニ本會社ヘ申出フルヘシ

普通科生徒募集廣告

來ル九月本校普通科第一年第二年及第三

例ニ依ル次常會

東京京橋區宮